

「社教ニュースときたまご」は、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に加え、高校生や成人を対象とした事業や公民館事業など、より幅広く社会教育に関する情報をお伝えしています。「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」の更なる推進にお役立ていただければ幸いです。

「関係者版」は先生方と学校運営協議会委員のみなさん、地域学校協働活動推進員、公民館、コミュニティセンターにお送りします。また、山形市ホームページに「Web版」を掲載します。

令和7年度の主な事業

- ・ コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
→ 研修会、出前講座、取材、情報交換、地域学校協働活動関係団体等支援
- ・ 放課後子ども教室
→ 大曾根小放課後子ども教室、公民館における放課後子ども教室
- ・ 若者支援
→ まちなかサードプレイス、サードプレイス Jr.
- ・ 家庭教育支援
→ 研修会
- ・ 社会教育関係団体、ボランティア活動団体等への支援

地域の中に保護者が学ぶ機会を～家庭教育支援～

家庭教育とは「父母その他の保護者が子どもに対して行う教育」であり、「乳幼児期の親子の絆の形成に始まる家族との触れ合いを通じ、生きる力の基礎的な資質や能力を育成するもの」とされています。

5月10日（土）ダブルインフィニティ株式会社の齋藤博美氏を講師に招き、児童とその保護者を対象とした「親子プログラミング教室」を開催しました。参加した保護者の多くは初めてプログラミングを始めて体験する方でした。心配そうにお母さんの画面を見つめたり、操作に困っているおばあちゃんにアドバイスしたり、お父さんより先にどんどん先に進んだりする子どもの姿が見られました。いつもと違う子どもとのかかわりを楽しんでいました。

学校を核とした地域づくりをめざして

地域学校協働活動は「地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動」です。

地域学校協働活動の一層の充実と、地域と学校の連携・協働の推進を図ることをねらいとして、学校運営協議会の委員、地域学校協働活動推進員、地域住民等を対象に、5月17日（金）に「学校を核とした地域づくり研修会」を開催しました。

「令和6年度コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文部科学大臣表彰」を受賞した高楯地区地域学校協働活動ネットワークから、たかせ元気会の緒方晴英氏、地域学校協働活動推進員・たかだて吹奏楽クラブの安孫子真澄氏、高楯中学校代表・サードプレイス村村長の小林紗弥さんに、その魅力的な取組を御紹介いただきました。また、これらの取組に対して山形大学地域教育文化学部教授の安藤耕己氏から助言をいただきました。

【参加者より】

- ・最終的に目指す姿を示していただき、これから自分の住んでいる地区、勤務している地区でできることから始めていきたいと、意欲を持つことができました。
- ・実際にやってみること、様々な世代で関わるのが地域全体の盛り上がりや巻き込むことにつながることを感じました。
- ・つながりをうまく活用して「楽しいこと」を実現できていて、とてもすばらしいと思いました。それぞれの活動を進めるにあたり、「熟議」が行われていることが、よりよい活動につながっているということに納得しました。
- ・地域に対する思い入れがある方が実はたくさんいらっしゃいます。そういう方たちを引き出して学校とつなぐ役割が推進員なのだ、と改めて感じました。

高楯地区地域学校協働活動ネットワークの事例から、「学校を核とした地域づくり」は「若者の参画」と「世代間交流」、「対話」によって一層推進されることを感じました。

社教ニュースときたまごのバックナンバー及び山形市における「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」については、こちらからご覧ください。

